

**【シニア女性のディスコ体験に関する意識と実態調査】**  
**過去ディスコに行ったことがある50～86歳女性は約6割！**  
**そのうち、約8割が18～23歳で最も通っていたと回答。**

**今、行ってみたいと思っている人は約2割、あるとうれしいのは、「座る場所」と「年齢制限」**

女性誌販売部数 No.1 (※1) 雑誌「ハルメク」などのマーケティングやリサーチのコンサルティングを通じて、50代以上のインサイトを日々探求する、ハルメク 生きかた上手研究所は、50～86歳のハルトモ（ハルメクのモニター組織）の女性490名を対象に「ディスコ体験に関する実態・意識調査」をWEBアンケートにて実施しました。

(※1) 日本ABC協会発行社レポート（2023年7月～12月）

**【 調査のポイント 】**

- 50～86歳の女性490名中、ディスコに行ったことがある人は58.8%（288名）。そのうち79.9%が、「18～23歳頃」に最も通っていたと回答。
- 「今、ディスコに行ってみたい」と回答した人は21.0%。ディスコ経験有無別に見ると、ディスコ経験がある人は30.6%、ディスコ経験ない人は7.4%が「今、行ってみたい」と回答。
- ディスコへ行っていた理由は、「流行っていたから」「友達とワイワイガヤガヤするのが好きだったから」という人が多い結果に。
- 欲しいサービス・施設は「座れる場所」「年齢制限」「多めのトイレ」など。他、「ヘアメイク」「スタイリスト」といったサービスを希望する声も多くあった。
- 今、ディスコに行くとして、自身の希望や、やってほしい企画をたずねたところ、「おしゃれ・着飾り」や「昔と同じ体験」という声が多く挙がった。

**【調査背景】**

ハルメク 生きかた上手研究所は、シニアのインサイトについて調査・分析を行っており、「再燃エンタメ」にも注目しています。現在、1970～90年代初頭に流行った“ディスコ”が再ブームになっており、シニア市場を活気づけています。また、生きかた上手研究所の所員が、この世界のパイオニアである、DJ OSSHY 氏主催のイベントへ参加。DJ OSSHY とイベント参加者へのインタビューも行いました。その声もお届けします。

**【調査概要】**

調査方法 : WEB アンケート

調査対象 : 50～86歳の全国のハルトモ（ハルメクのモニター組織）の女性

有効回答者数 : 490名（50～86歳）

調査実施日 : 2024年6月21日（金）～6月24日（月）

調査主体 : 株式会社ハルメク・エイジマーケティング ハルメク 生きかた上手研究所

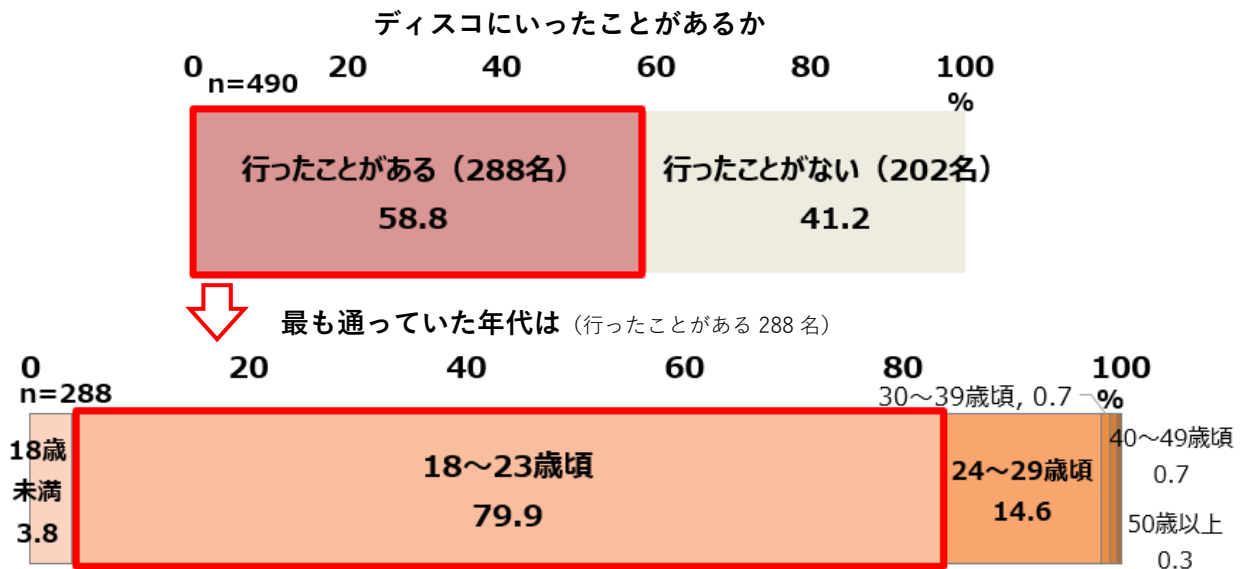
※調査結果のパーセンテージは、小数点以下第2位を四捨五入したため、総数と内訳の合計が一致しないことがあります。

※本リリース内容を掲載いただく際は、出典「ハルメク 生きかた上手研究所調べ」と明記をお願いいたします。

※調査主体の「ハルメク 生きかた上手研究所」 所長への取材、コメント提供も可能です。

ディスコに行ったことがある人は58.8%（288名）。  
そのうち79.9%が、「18～23歳頃」に最も通っていたと回答。

- ディスコに行ったことがある人は58.8%（288名）で、およそ6割が経験あり。最も通っていた年代は、「18～23歳頃」が79.9%と最も多く、次いで「24～29歳頃」が14.6%と続く。



「今、ディスコに行ってみたい」と回答した人は21.0%。  
ディスコ経験有無別に見ると、ディスコ経験がある人は30.6%、  
ディスコ経験がない人は7.4%が「今、行ってみたい」と回答。

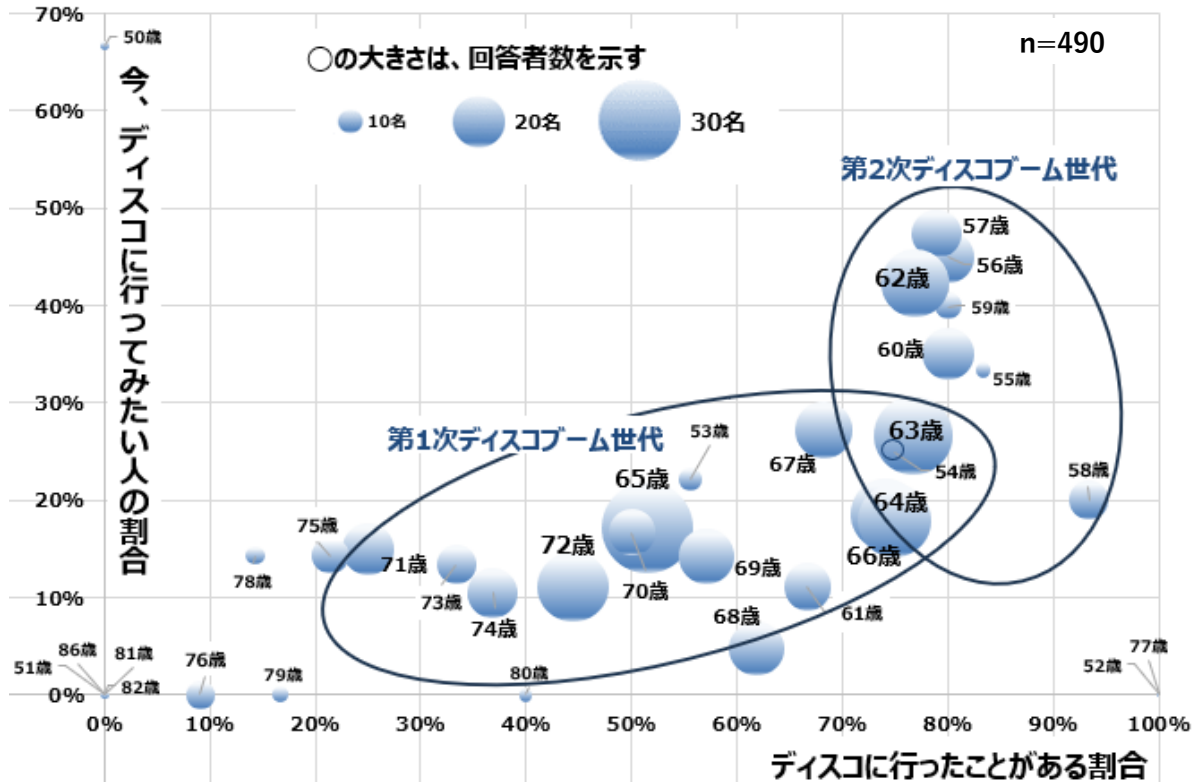
- 「今、ディスコに行ってみたい」と回答したのは、21.0%。過去にディスコに行った経験がある人で、「今、行ってみたい」と回答した割合は30.6%と高いが、ディスコ経験のない人は7.4%と、今、行ってみいたい意向には大差がある。
- ディスコに行ったことがある人の割合と、今、ディスコに行ってみたい人との割合とを掛け、そこに現年齢（2024年時点）を回答者数でプロットすると、現年齢60代後半～70代前半と、現年齢60歳前後にボリュームゾーンがあることがわかる。前者は1次ディスコブームの時期に、後者は2次ディスコブームの時期<sup>1</sup>に、18～23歳頃（ディスコ体験年齢が最も多い）を過ごしている。現在63～64歳の人は、その年代の頃に、両方のブームを経験している。

ディスコに行ったことがあるか × 今、行ってみたいか

		計(名)	今、行ってみたいと	
			思う(名)	思う%
計(名)		490	103	21.0
ディスコに 行ったことが	ある	288	88	30.6
	ない	202	15	7.4

<sup>1</sup> 1978年、ディスコを舞台にした映画『サタデー・ナイト・フィーバー』の公開を機に、爆発的かつ世界的な広がりを見せたのが、1次ディスコブーム。80年代後半のバブル経済期に全盛を迎え、多人数の客の踊る大規模なディスコが大都市を中心に全国的に流行したが、2次ディスコブーム。出典 小学館 日本大百科全書(ニッポニカ)

【現年齢ボリューム別】 ディスコに行ったことがあるか × 今、行ってみたいか

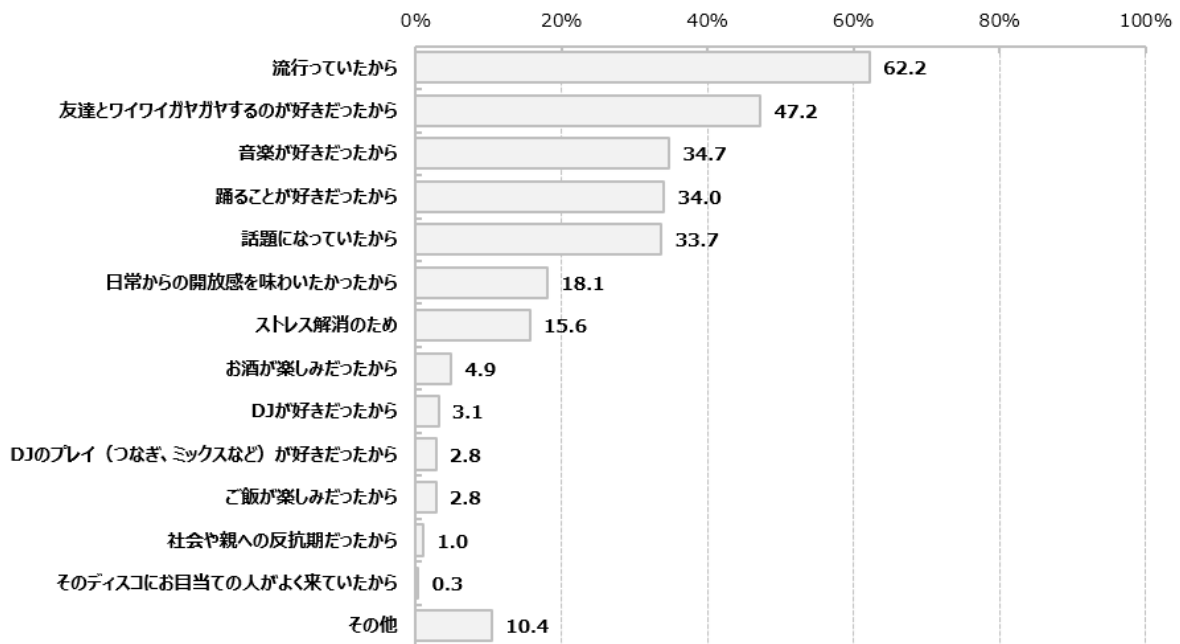


ディスコへ行っていた理由は、「流行っていたから」

「友達とワイワイガヤガヤするのが好きだったから」という人が多い結果に。

- ・ ディスコの軸である、「音楽」・「踊る・ダンス」の2大要素より、「流行っていたから」「ワイワイガヤガヤ」という要素の方が、行く理由としては強かった。

ディスコに行った理由をいくつでもお選びください。(行ったことがある288名)

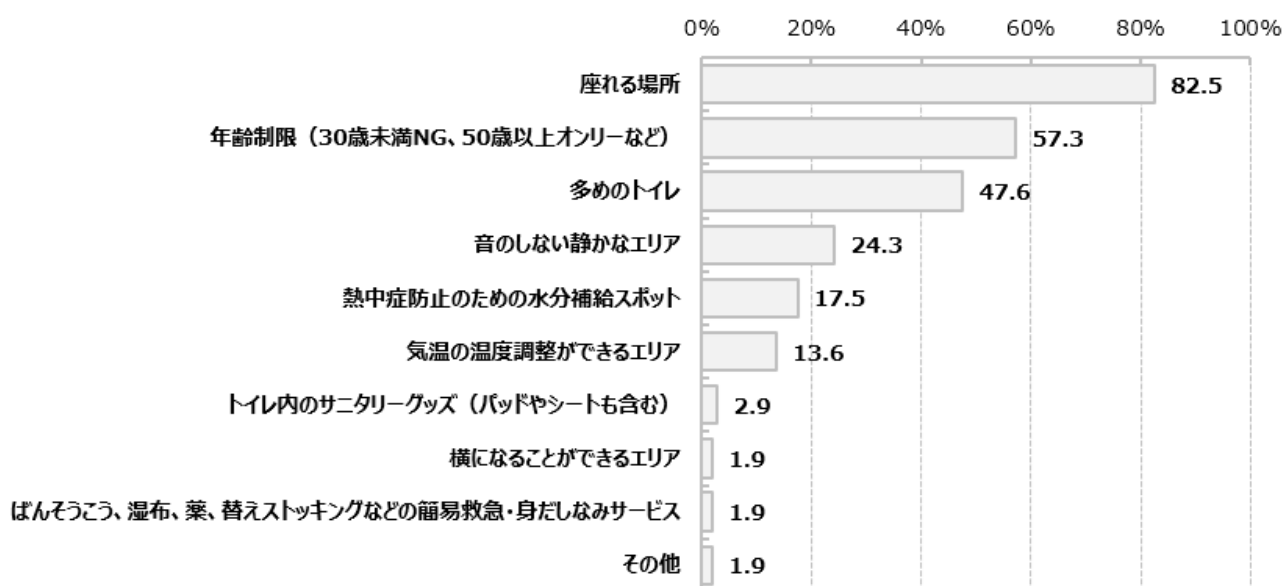


**欲しいサービス・施設は「座れる場所」「年齢制限」「多めのトイレ」など。**

**他、「ヘアメイク」「スタイリスト」といったサービスを希望する声も。**

- ・ 今、ディスコに行ってみたいと回答した 103 名に、「通常のディスコではあまりないかもしれないが、あると良いと思う設備・サービス・ルール」を、3つまで選んでもらった結果、トップ3は、「座れる場所」「年齢制限」「多めのトイレ」となった。続いて、「音のしない静かなエリア」、「熱中症防止のための水分補給スポット」など、体調に関するサービスが並ぶ。
- ・ 自由回答からは、「メイクさんスタイリストさんなど当日変身させてくださる方々」（61 歳）、「ヘアメイクをしてくれるサービス」（56 歳）、「スタイリストによる洋服の提供」（69 歳）といったおしゃれ周りのサービスを希望する声も。

欲しいサービス・施設を3つまで選択（今、行ってみたい103名）



**今、ディスコに行くとして、自身の希望や、やってほしい企画をたずねたところ、「おしゃれ・着飾り」や「昔と同じ体験」という声が多く挙がった。**

昔と同じ企画を再現してもらいたい (56 歳)
運動不足を楽しく解消できる企画や若いときにタイムスリップできる企画 (62 歳)
自分が楽しんだ頃、そのままの空間の再現、曲、雰囲気味わいたい (63 歳)
30 年前にヒットした軽快な洋楽オンリーで、当時をリアル再現できるような室内の作りで楽しかった思い出にひたれるような体験ができると嬉しい (63 歳)
仮装やコスプレをする (66 歳)
年齢制限 (50 歳以上) の男女を対象にしてほしい ミラーボールや演出も派手にして、当時流行っていた曲をがんがんながしてほしい ドレスコードで精いっぱいおしゃれして、非日常を味わいたい しかし年齢に合わせて椅子やトイレを多く設けてほしい (66 歳)

## 「シルバーディスコ®」 フォトレポート & 取材

2024年5月16日（木）14:00～16:30 中目黒GTプラザホールにて行われたDJ OSSHY主催の「シルバーディスコ®」。

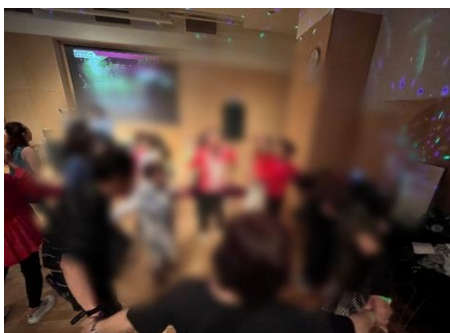
昼間開催、ノンアルコール・ノンスモーク、水分補給用のミネラルウォーターサービスと、健全なディスコスタイル。



主催 DJ OSSHY



まずはプロの指導によるダンスレッスン



レッスン終了後はお待ちかねのディスコタイム！



水分補給を促すスタッフも巡回

### 【DJ OSSHY 氏への取材（要約）】

「シルバーディスコ®」の原点は、大学の教授から声をかけられた介護施設でのイベントの開催。そこから、安心安全、老若男女が楽しめ、“一体感”を味わうことができるディスコを提唱し続けている。「拝むように」「綱引きをするように」といった誰にでもわかりやすい振りつけの解説を心掛ける。最初は一人で恐る恐る来る人が多いが、リピート率は6割を占める。

情熱の背景には、「親に認められたい（彼の父は、6月に逝去した元アナウンサー 押坂忍氏）」という感情があった。尊父は晩年、シルバーディスコ®の活動を応援していたという。

### 【DJ OSSHY ファンクラブ会員への取材（要約）】

当日、現場の運営を手伝うスタッフからも話を聞いた。

DJ OSSHY の主催するディスコには、3つの敷居の低さがあるという。①1人で来ても大丈夫、②酒タバコなしの安心感、③ゴージャスに着飾らなくてもいいがおしゃれも歓迎、という自由度の高さ。

自由かつハツラツと楽しむ姿が印象的であった。



DJ OSSHY ファンクラブのボランティアスタッフ

## 【専門家の見解】

ハルメク 生きかた上手研究所 所長 梅津 順江（うめづ ゆきえ）

2016年3月から現職。主に年間約900人のシニアを対象にインタビューや取材、ワークショップを実施。



### 再燃エンタメは50代以上の消費欲をくすぐる

70～80年代に流行ったディスコが再燃しています。仕掛け人は「ディスコでいつまでも元気で明るく楽しく」を提唱するDJ OSSHY氏。平日昼間に中目黒GTプラザホールで開催された「シルバーディスコ®」に取材を兼ねて参加しました。ミドル層から80代まで約100名の男女が2時間半、汗だくで踊るので熱気が充満。前半はダンサーJINさんによる「ダンスレッスン」があり、後半の「ディスコタイム」では70～80年代の懐かしの曲に合わせてステップを踏むからか、会場全体に一体感がありました。また、音楽と踊りだけを楽しむ安全・健康的なディスコスタイルで、世代への配慮がなされています。入口で、水分補給のためのミネラルウォーターが配られ、60席の座れる椅子が用意され、自由に休憩できる工夫もありました。

生きかた上手研究所の調査で、50～80代女性のディスコ経験率は約6割で、ディスコに行った主な理由は「当時、流行っていた」というミーハーなものであることが分かりました。「今、ディスコに行きたいか」をたずねると、全体の2割、経験者の3割が参加意向を示しました。多くの娯楽がある中での2、3割は、決して少なくはありません。再燃エンタメにいったい何を求めているのでしょうか。若い頃の空間に身を置くことで、トリップ感を得られることが期待されていました。具体的には、「仮装やコスプレ」、「おしゃれして非日常を味わいたい」、「若い時にタイムスリップ」、「昔と同じ企画の再現」などの記述。「カラオケ以上ハロウィン未満」程度の位置づけでしょうか。

「シルバーディスコ®」は、DJ OSSHYのファンクラブ会員からの参加もあり、6割がリピーターとのこと。ファンクラブ会員にも取材しました。印象的だったのが50代後半女性の「私、今が反抗期なの」という一言。若い頃はいかがわしいイメージのディスコには行ったことがなかったが、いつかは行きたいとっていて、「寝たきりの年寄りを増やしたくない」というDJ OSSHYの哲学、曲好きが集まっているところに共感して入会。そして、自由で安心なところが気に入っているそうです。ディスコ経験者はもちろん、彼女のような未経験者も潜在層として含めると、50代以上にに向けた再燃エンタメ「シルバーディスコ®」はますます活気づくことが予測できます。

## ■女性誌販売部数 No.1！ 50代からの生きかた・暮らしかた応援雑誌「ハルメク」

50代からの女性が前向きに明るく生きるための価値ある情報をお届けしています。健康、料理、おしゃれ、お金、著名人のインタビューなど、幅広い情報が満載です。また、雑誌「ハルメク」の定期購読者には、本誌とともに提供するカタログと、オンラインでの通信販売を行っています。販売している商材は、ファッション・インナー・コスメ・美容・健康など多岐にわたり、独自のシンクタンクである「ハルメク 生きかた上手研究所」を通じて利用者の声を徹底的に調査、反映した商品開発で、多くの女性から支持を得ています。

## ■ハルメク 生きかた上手研究所のシニアリサーチデータは、[「ハルメク シニアマーケティング LAB」](#)で掲載しています。

「ハルメク シニアマーケティング LAB」は、ハルメク世代（シニア）を顧客とする企業にとって有益な情報をお届けしている情報サイトです。ハルメクグループが提供する定期購読誌や通販等を通じて得たマーケティングデータや記事、シンクタンク「ハルメク 生きかた上手研究所」の調査レポートなど豊富な情報が満載です。